

英単語を効果的に覚えるには…?

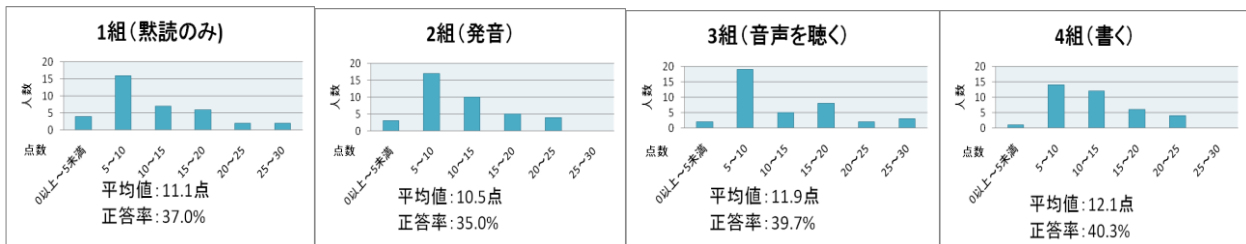
1. はじめに

現在、学校の英語教育では、「読む」、「聞く」、「声に出す」、「書く」という方法を使用して英語を学習することが推奨されており、私たちも授業でそのように学習している。しかし、高校生は部活動などで忙しい毎日を送っている人が多く、自主学習ではこれらの方法を全て使用して学習することが困難な場合もある。そこで私たちは、これらの方法のうち、どの方法を使って学習すれば一番効果が出るのかが分かれば、高校生の単語学習の効率が上がるのではないかと思い、研究をすることにした。

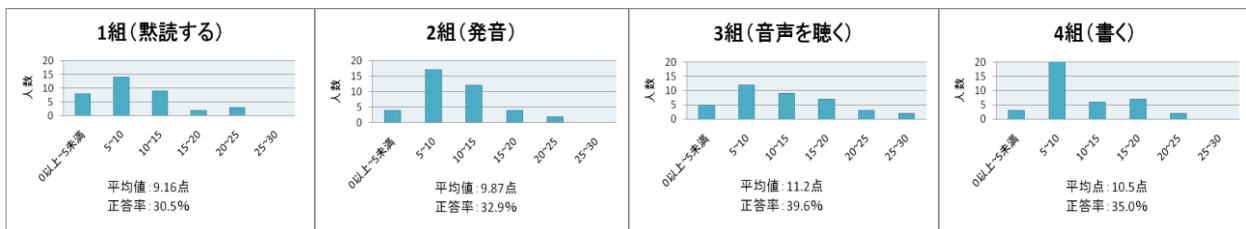
2. 調査

【実験 1】

- ・対象者…高津高校一年文理学科 160 名
 - ・学習方法…システム英単語(駿台出版・2014)p. 88～p. 93 の 英単語 30 語を以下の方法で 1 週間自主学習をしてもらいテストを行った。その後は自主学習をせずに、さらに 1 週間後、2 回目のテストを行った。
1 組: 黙読 2 組: 発音 3 組: 音声を聴く 4 組: 書く
 - ・テスト内容…第 1 回・第 2 回共に穴埋め形式(英語→日本語, 日本語→英語, 各 15 問)
- 仮説 スペルを覚えやすく、筆記テストに強い「書く」方法が 1 番効果的であると考えた。
- 結果 ・第 1 回テスト



- ・第 2 回テスト(第 1 回テストから 1 週間後)

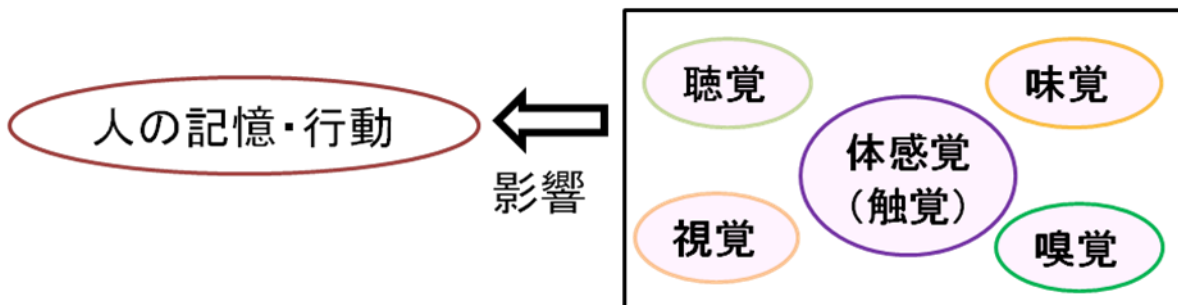


第 1 回、第 2 回共にどのクラスでも 5~10 点の人数が多く、0~10 点の人数がクラスの約半数を占めていたため、正答率は 30~40%と全体的に低くなった。

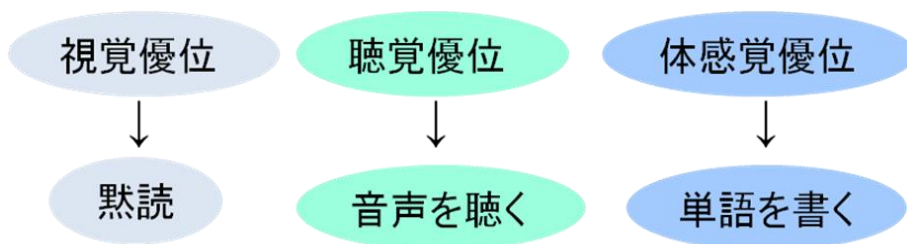
考察 4クラスとも結果にほぼ差がなかった。学習時間を定めておらず、アンケートによる調査でも、テストに向けて学習をしなかったと回答した被験者も多かったため、学習方法の違いが結果に及ぼす影響が少なかったからだと考えられる。また、クラス単位で学習方法を定めたために個人に合った学習方法を無視することになり、結果として点数が上がらなかったとも考えられる。

【実験2】

実験1の結果から、より個人に合った学習方法を提示し、学習意欲を高めることも必要ではないかと考えた。そこで個人にあった学習方法を見つけるために、NLP(神経言語プログラミング)タイプ診断を用いた。NLPとは、人の記憶や行動に大きな影響を及ぼす「神経」(五感:視覚、嗅覚、体感覚(触覚)、聴覚、味覚)の研究を通じて、人を捉える学問である。この考え方をもとに、優位感覚や劣位感覚を判断するために利用されるのがNLPタイプ診断である。



- ・対象者…高津高校2年 20名
- ・学習方法…NLPタイプ診断によって、視覚優位、聴覚優位、体感覚優位の3つのグループに分け、優位感覚と劣位感覚に基づく学習方法で学習してもらい、テストを行った。英検準一級出る順パス単(旺文社)p.82~p.85の英単語10語を以下の方法で7分間学習し、その後は自主学習をせずに、2日後にもう一度テストを行った。
視覚:黙読 聴覚:音声を聴く 体感覚:書く



- ・テスト内容…第1回・第2回共に3択式(日本語→英語, 10問)

仮説 優位性が高い感覚に基づいた学習方法で学習すれば、効果的に覚えられると考えた。

- 結果
- ・第1回テスト(優位感覚に基づく学習方法)
平均点:9.708点 正答率:97.0%
 - ・第2回テスト(劣位感覚に基づく学習方法)
平均点:8.85点 正答率:88.5%

考察 優位感覚のほうが僅かに劣位感覚よりも点数が高く、正答率が約10%高かったが、明確な差ではなかった。暗記からテストまでの期間が短かったことや実験に用いた単語数が少なかったことが原因と考えられる。またNLPタイプ診断の信憑性は効果を実証するには不十分な経験的証拠しかないため確認できていない。よってこの僅かな差が一般的に認められる差なのかどうか、さらなる調査が必要である。

3. まとめ

2つの実験から、全員に共通するような効果的な英単語の学習方法を見出すことは出来なかった。新しい勉強方法を確立出来なかったのは残念である。しかし既に社会で提唱されている勉強方法の多くも、今回の研究と同じく有効であるかは十分に証明されていない。世の中に溢れる情報に惑わされることなく自分に合った勉強方法を見つけようとする姿勢が、単語学習のみならず様々な場面で重要である。

参考文献：英検準一級出る順パス単(旺文社)、システム英単語(駿台出版)
脳タイプ診断 (<http://brain.sinritest.com/NLPvak.htm>)